

畜産・酪農をめぐる情勢

〔牛乳・乳製品〕

- 1. 牛乳・乳製品消費拡大に対する主な取組 1
- 2. 生乳の計画生産の現況 3

〔牛肉〕

- 3. 和牛遺伝資源の知的財産に関する検討状況 5
- 4. 需給価格動向 7

〔共通〕

- 5. 飼料自給率向上の取組 11

平成18年6月

農林水産省 生産局

1. 牛乳・乳製品消費拡大に対する主な取組

(1) 消費拡大対策の概要：

国、関係団体、各乳業メーカーにおいて連携を図りながら、需要拡大対策を実施。

日本酪農乳業協会(J-ミルク)

「3-A-Day!」運動

・1日3回牛乳・乳製品を食生活に取り入れ、食生活の改善を図る。

〈活動内容〉

- ・TVコマーシャル、パブリシティ、交通広告等の実施
- ・日本教育新聞との共催による酪農現地研修
- ・小学校における出前授業
- ・量販店における液晶POPの設置
- ・イベント、セミナー等の開催 等



国

・カルシウム摂取の重要性に重点をおいた普及啓発等多岐にわたる支援を実施。

〈活動内容〉

- ・骨密度測定と併せた普及啓発
- ・酪農教育ファームの推進
- ・新規用途開拓のための新商品開発支援
- ・牛乳・乳製品の持つ機能性の調査・研究 等

連携

中央酪農会議

「牛乳に相談だ!」キャンペーン

・10代(高校生)をメインターゲットとして、牛乳の「存在感」を高め、「ベネフィット」を多角的に普及する。

〈活動内容〉

- ・TVコマーシャルの放映
- ・Web・携帯サイトの開設
- ・交通広告等による啓発
- ・普及啓発ツールの作成 等



乳業メーカー

・各社ごとに販促活動等を実施

〈活動内容〉

- ・新商品の開発
- ・マスメディアの活用による普及啓発
- ・実需者への販促活動 等

(2) 農林水産省における牛乳乳製品の消費拡大対策の推進状況

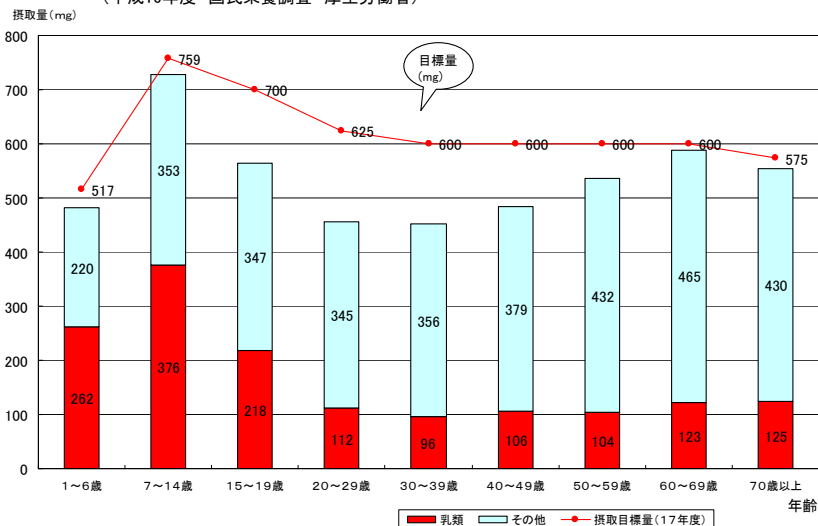
カルシウムの摂取の重要性や牛乳乳製品の機能性に重点をおいた普及啓発等多岐にわたる支援を実施

にっぽん食育推進事業

食事バランスガイドの普及と併せ

- 若年層を中心とした骨密度測定、カルシウム摂取の有用性等の普及啓発
- シンポジウムの開催による機能性の普及啓発 等

カルシウムの食品群別摂取構成比(男女平均)
(平成16年度 国民栄養調査 厚生労働省)



国産生乳需要基盤確保対策事業

- 牛乳・乳製品の機能性に関する研究・実証調査及び普及啓発
- 牛乳・乳製品の輸出に向けた推進体制の構築、課題解決のための技術開発
- 牛乳乳製品の新規用途開拓のための新商品開発の支援
- 酪農教育ファームを推進するための実践酪農家の育成 等

2. 生乳の計画生産の現状

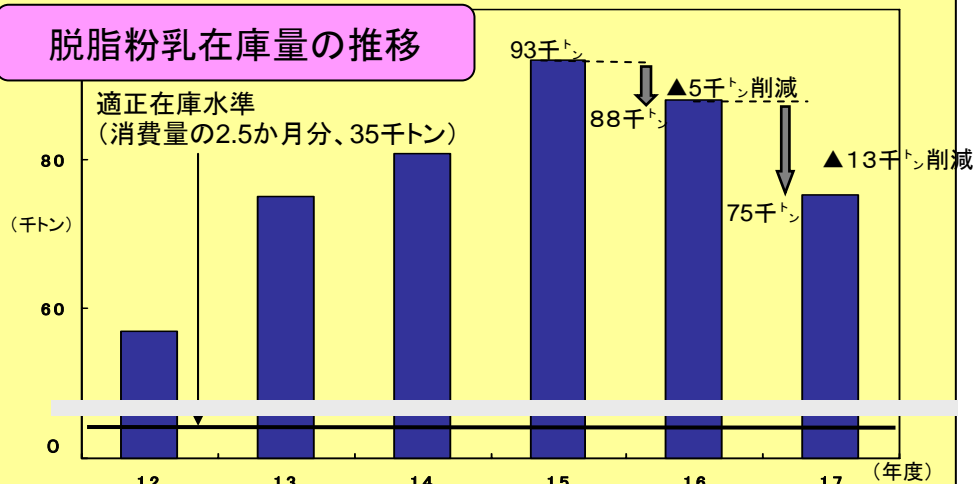
(1) 乳製品在庫量の推移及びチーズ生産量の推移

○脱脂粉乳は供給量が需要量を上回って推移した結果、平成15年には在庫量が93千トンまで増加したが、16年・17年と過剰在庫処理対策を実施し、在庫は75千トンまで減少。

○バターは需要の減少に伴い、在庫は増加傾向で推移し、17年度は5千トン増加し、31千トン。

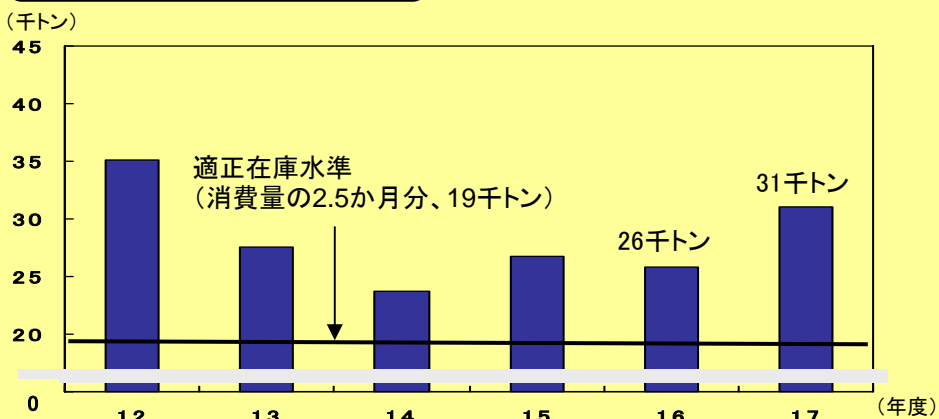
○需要が見込まれるチーズ向けの生乳供給拡大を支援し、17年度にチーズ向けの生産量・国産割合は大きく増加。

脱脂粉乳在庫量の推移



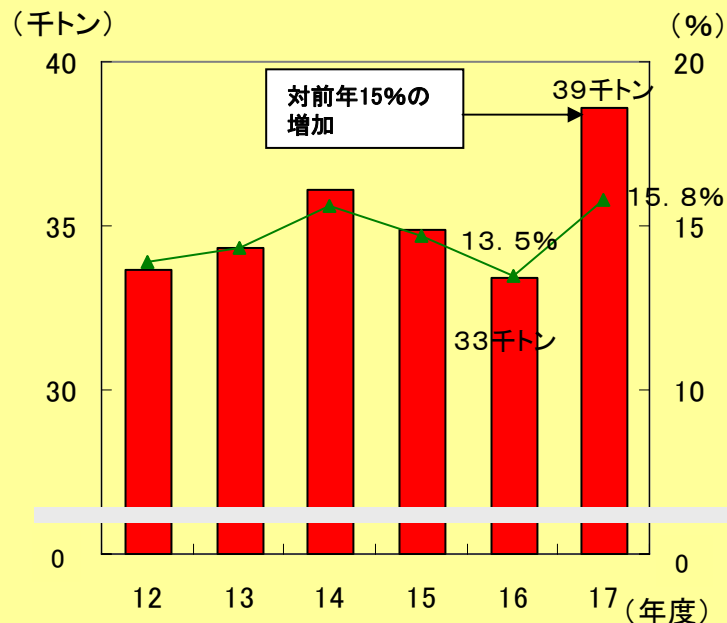
資料:牛乳乳製品課調べ

バター在庫量の推移



資料:牛乳乳製品課調べ

国産ナチュラルチーズの生産量
及び国産割合の推移



(2) 乳製品過剰在庫解消に向けた生産者団体の自主的な取組

- 生産者団体の自主的な取組みとして、「減産型」の計画生産とすることを決定。
- 全国で前年比98.2%の生乳生産量とすることを決定。
- 20年度にはチーズ新工場が稼働し、チーズ仕向けが拡大。⇒ 18、19年度の2年間は、生産抑制等の対策が必要。

18年度

脱脂粉乳過剰在庫処理対策

対策の継続を決定(在庫削減5千トン目標)

輸入乳脂肪調製品置換対策

輸入乳脂肪調製品を国産生クリーム等に置換する対策を決定(生乳換算5万トン目標)

生産抑制対策

(社)中央酪農会議

計画生産を「減産型」にすることを決定
(対前年度実績比▲1.8%)

北海道

経営方向を尊重した目標数量選択制度を実施

①Aタイプ(経営維持・拡大意向:9割)

前年比99.5%

②Bタイプ(経営縮小意向:1割)

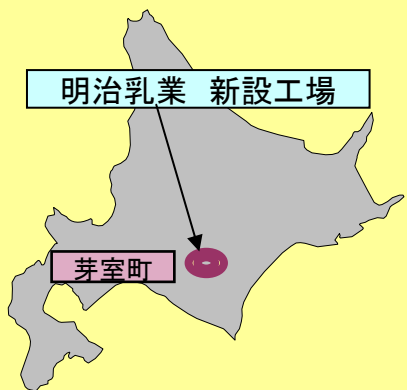
前年比90%

〔全酪農家からの拠出金により、
乳価4円/kg上乘せ〕

20年度～

チーズ増産体制

明治乳業がよつ葉乳業との連携のもと、十勝に生乳20万トンの規模のチーズ新工場を操業開始予定



2年間

生産抑制等の
対策が必要

3. 和牛遺伝資源の知的財産に関する検討状況

○ 家畜の遺伝資源の保護に関する検討会 中間取りまとめ骨子（平成18年5月31日公表）

1 貴重な遺伝資源である和牛を知的財産として保護

- ・ 特徴的な遺伝子(うま味、香りなど)について遺伝子特許の戦略的な取得の推進
- ・ 特許の積極的・効率的な活用の仕組み(「パテントプール」等)の構築

2 精液の流通管理の徹底

- ・ 精液のロット管理体制の強化(精液ストローへのバーコード印字等)
- ・ 売買契約書に「海外に転売しない」旨の条項を盛り込むよう推進
- ・ 精液ストローのトレーサビリティ・システムを強化(精液証明書、バーコードを活用)

3 紛らわしい「和牛」表示の排除

- ・ 「和牛」表示を厳格化するため、家畜改良増殖法、牛肉トレーサビリティ法等を活用し、純国産の和牛のみを「和牛」と表示

4 和牛の改良・生産体制の強化

- ・ 遺伝子特許等の改良・生産への活用
- ・ 枝肉データの収集システム等を活用した全国的な改良体制の強化

○ 「家畜の遺伝資源の保護に関する検討会」の開催

- 4月18日 「家畜の遺伝資源の保護に関する検討会」を設置
- 5月31日 中間取りまとめ骨子がまとめられ、農林水産省知的財産戦略本部に提出(7月下旬に取りまとめ予定)
- 6月 2日 農林水産省知的財産戦略本部(第2回)
- 6月 8日 政府知的財産戦略本部

○ 検討会委員の構成

- 秋岡 榮子(経済エッセイスト)
- 沖谷 明紘(日本獣医生命科学大学名誉教授)
- 土肥 一史(一橋大学大学院国際企業戦略科教授)
- 中村 和広(弁理士、日本弁理士会バイオ委員会元委員長)
- ◎松川 正(元農林水産省畜産試験場場長)
- 吉川 広司(家畜人工授精事業体協議会代表)
- 吉村 豊信((社)全国和牛登録協会専務理事)

(50音順、◎:座長、○:座長代理)

和牛の遺伝資源をめぐる状況と課題

(参考)

精液・生体の流出

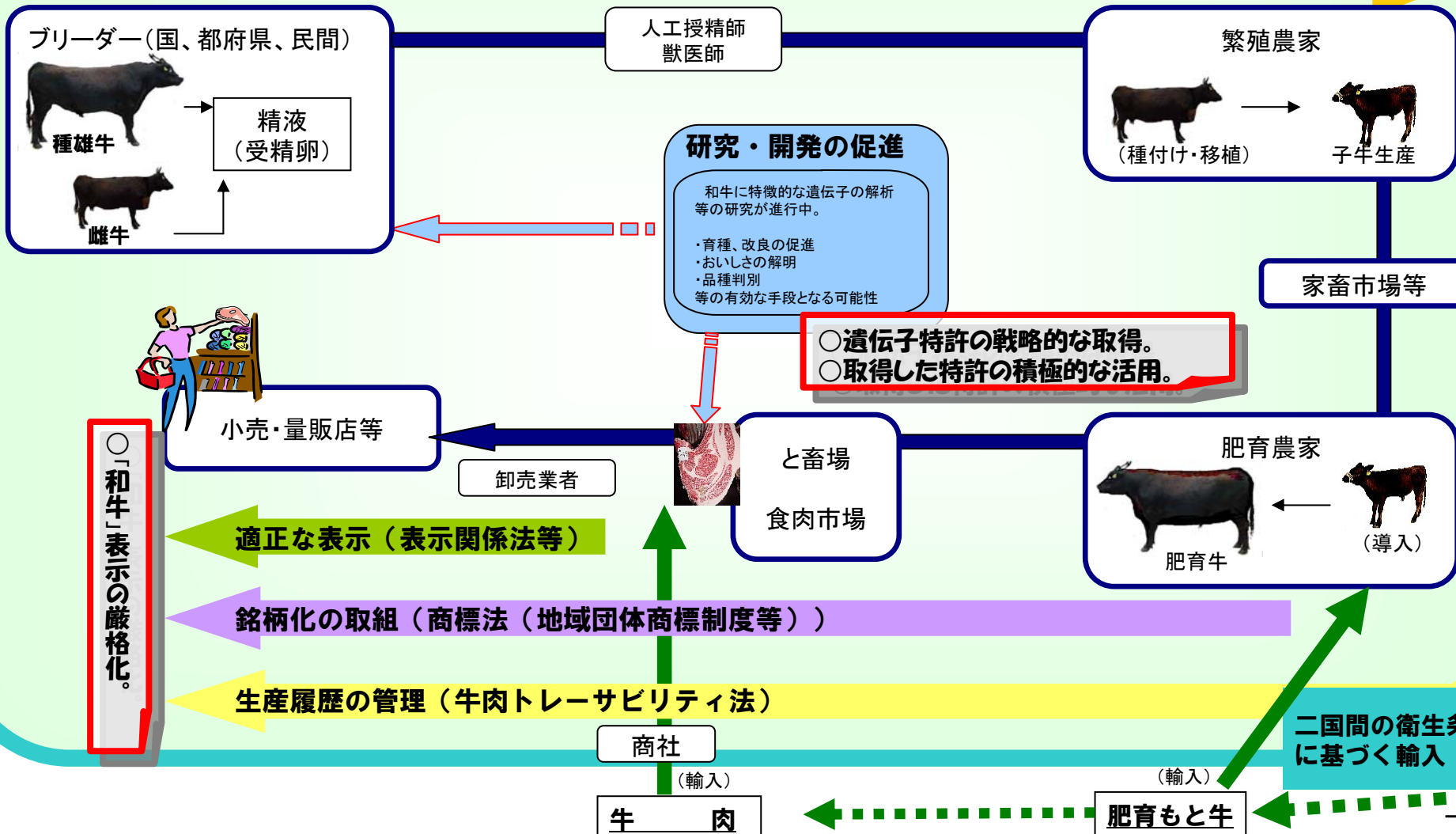
二国間の衛生条件に基づく輸出

○精液の流通管理の徹底。

種畜検査に合格した種雄牛以外の精液は流通しない。

家畜登録制度により、血統(品種)が管理されている。

和牛の改良増殖 (家畜改良増殖法)

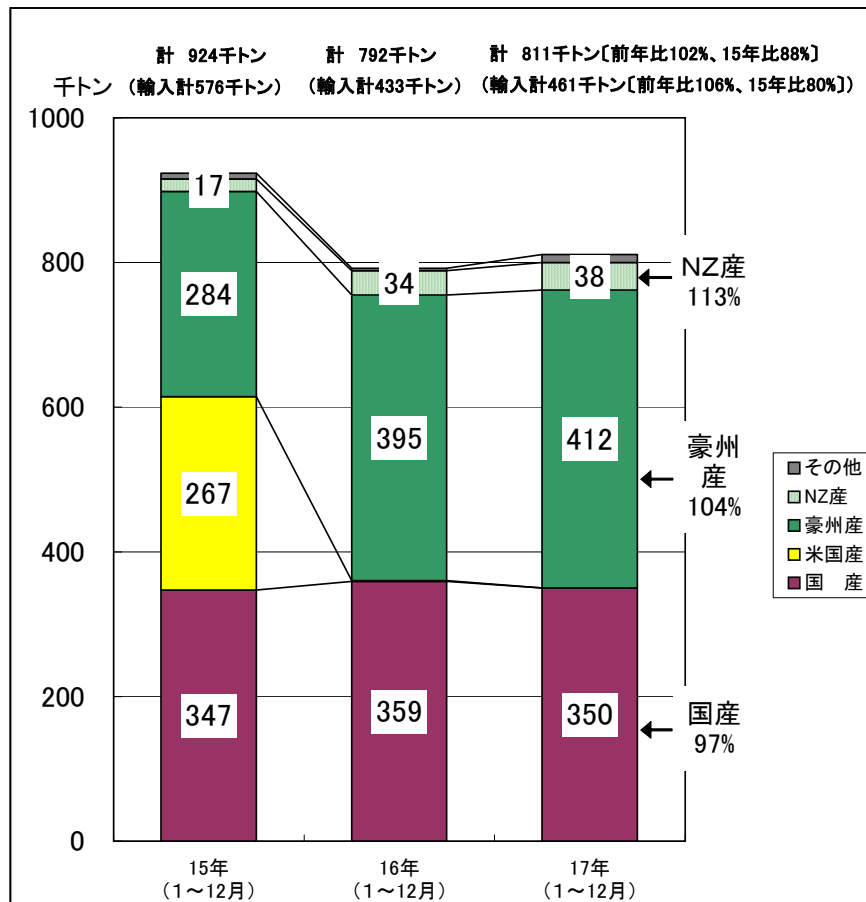


4. 需給価格動向

(1) 牛肉の供給量

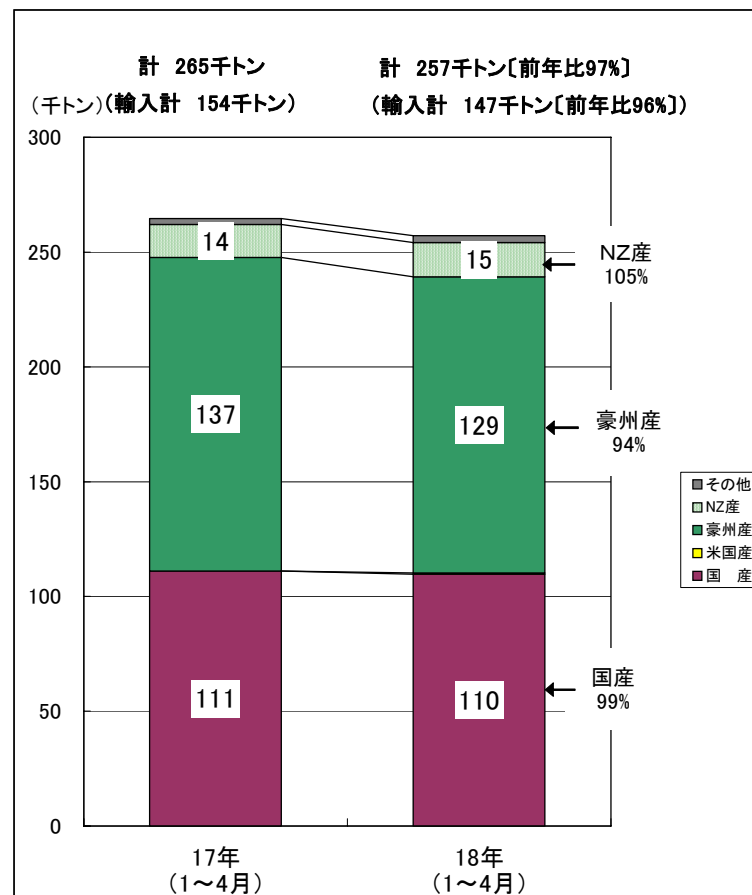
【過去3年の動向】

〔米国産牛肉の輸入停止以降(15年12月以降)、豪州産等牛肉の輸入が増加〕



【最近の動向】

〔1~4月の供給量は、前年同期を若干下回る水準〕

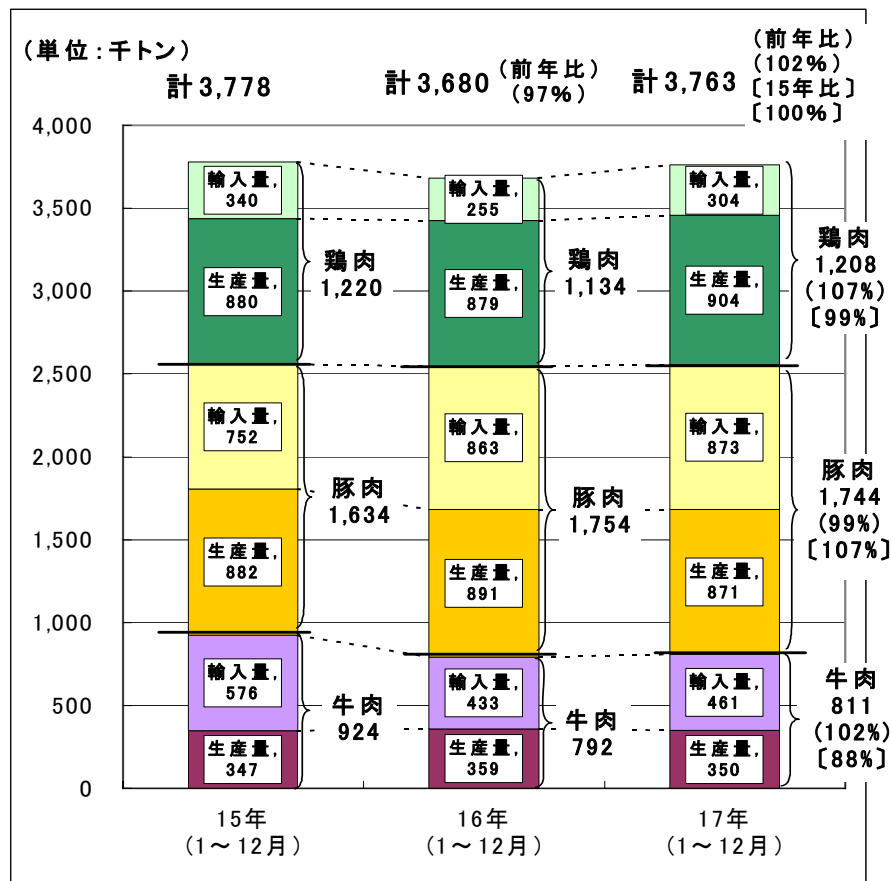


資料：農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「貿易統計」。数量は部分肉ベースであり、調整品は含まれない。

(2) 食肉の供給量

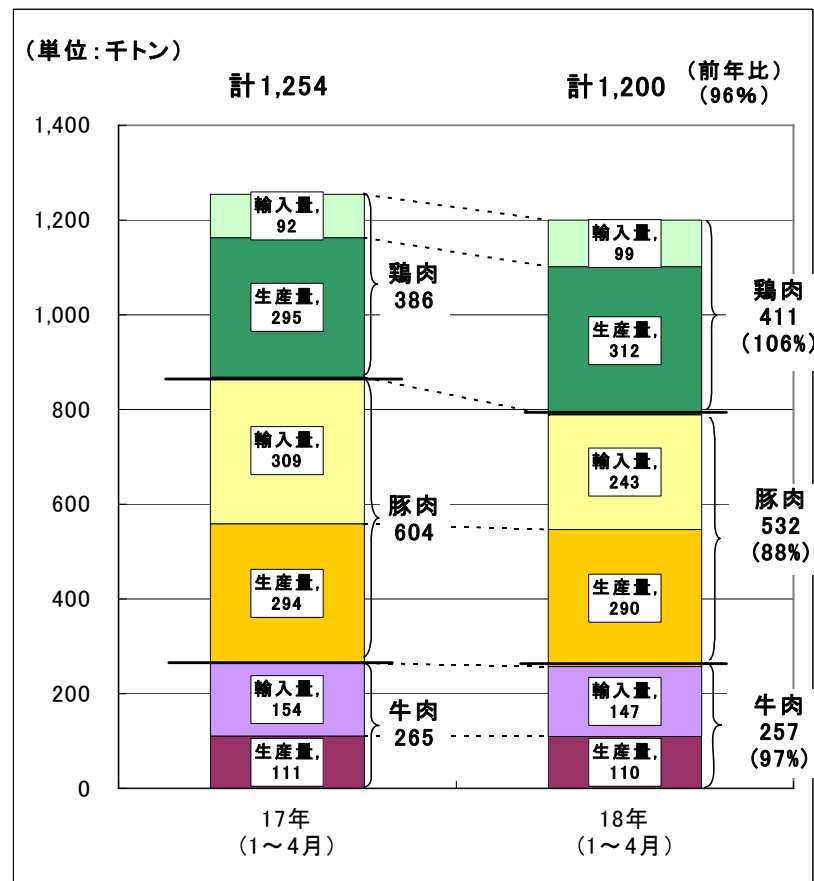
【過去3年の動向】

〔17年は、豚肉の代替需要が一巡する一方で、牛肉や鶏肉の供給量が回復傾向〕



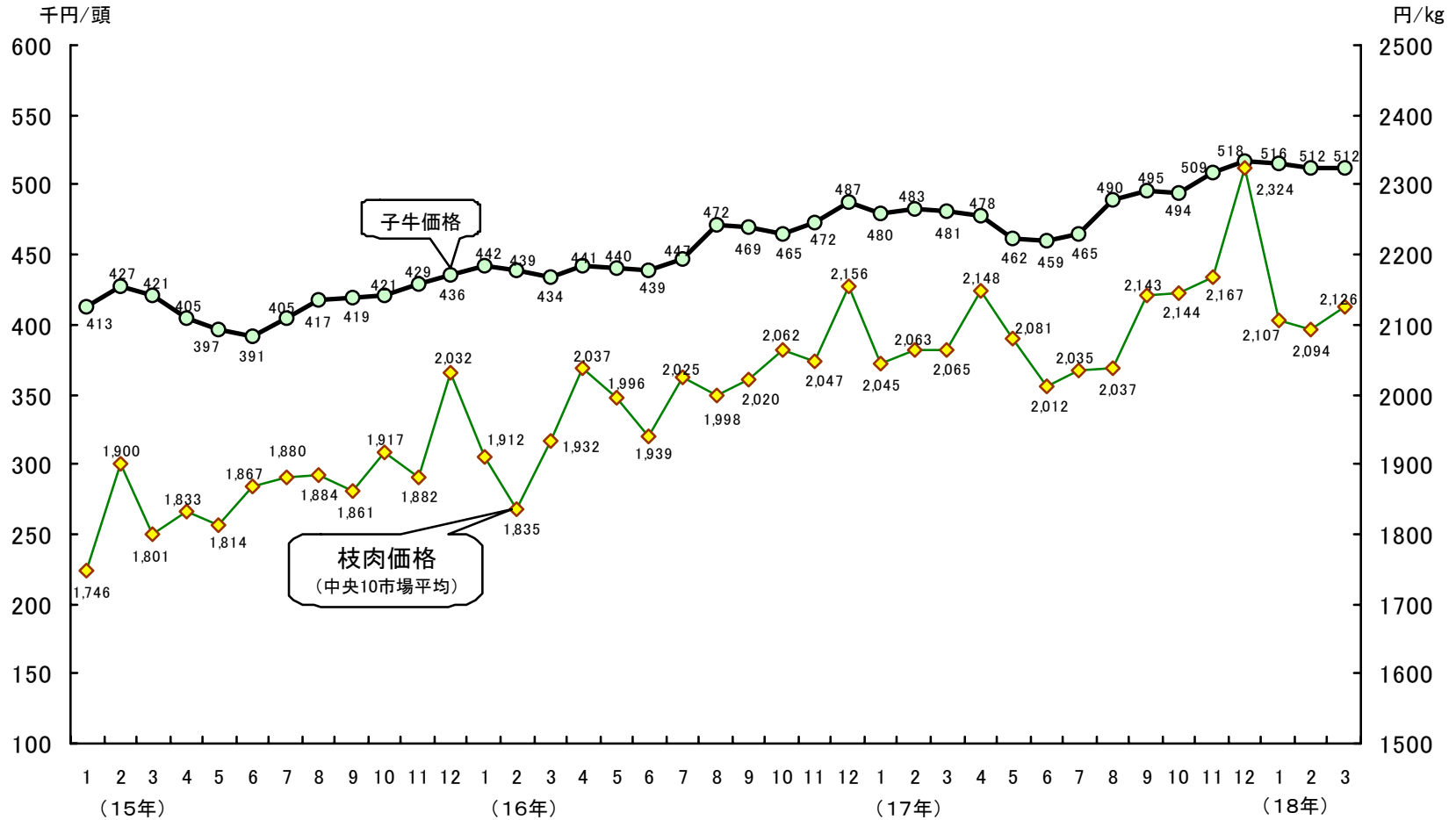
【最近の動向】

〔1~4月の供給量は、前年同期を若干下回る水準〕



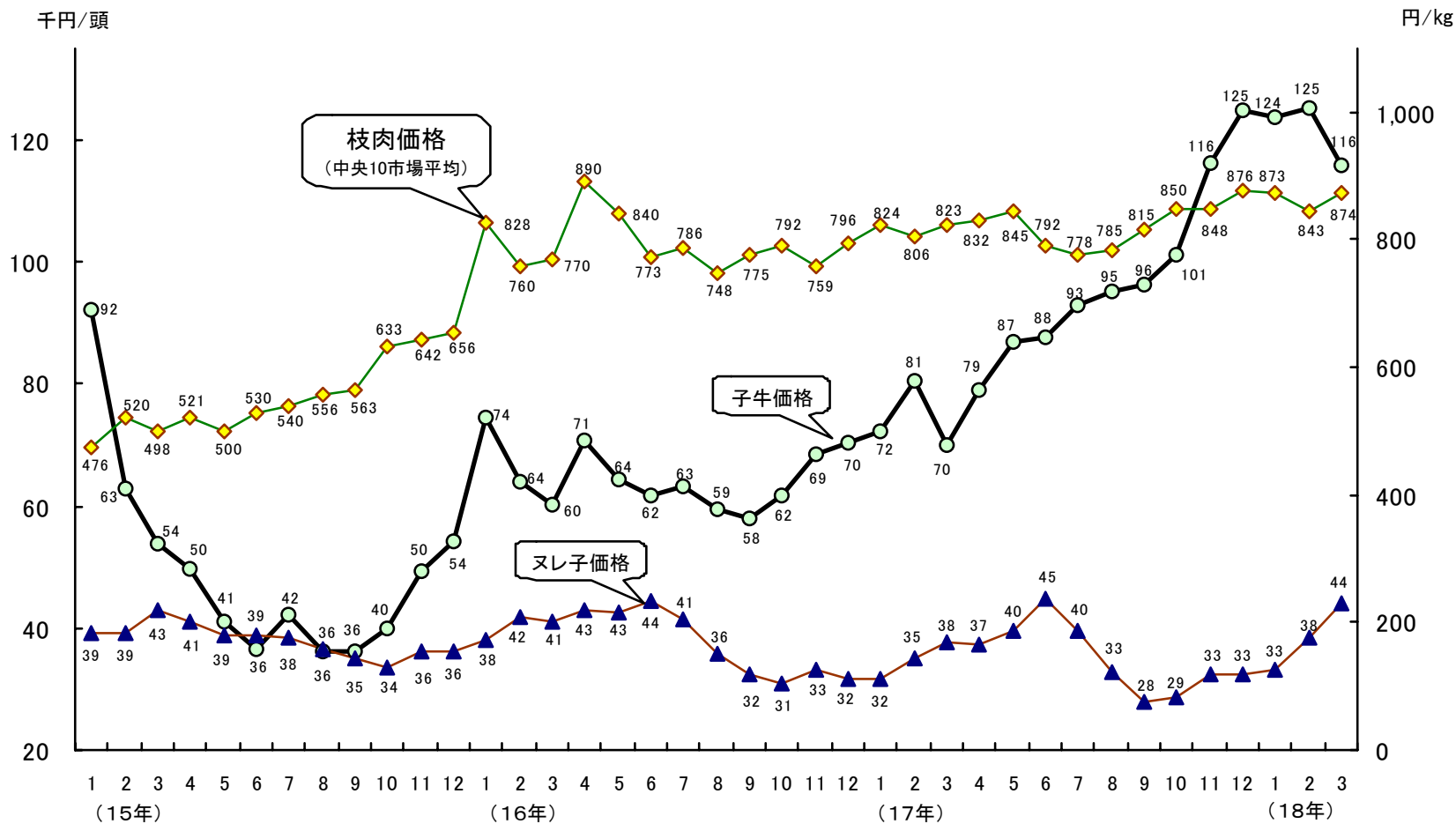
資料：農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「貿易統計」。数量は部分肉ベースであり、調整品は含まれない。

(3) 黒毛和種子牛・枝肉価格の推移



資料: 農林水産省調べ、「畜産物流通統計」農林水産省

(4) 乳用種子牛・ヌレ子・枝肉価格の推移



資料: 農林水産省調べ、「農作物価統計」、「畜産物流通統計」農林水産省

5. 飼料自給率向上の取組 [飼料自給率24% (H15) →35% (H27)]

- 粗飼料増産の取組を点から面へ拡大
- 食品残さ飼料化(エコフィード)の安全性の確保

18年度行動計画のポイント

【粗飼料増産】

- 国産稲わらの仲介・斡旋及び収集の早期かつ重点的な取組
- 稲発酵粗飼料の仲介・斡旋及び作付拡大に向けた早期かつ重点的な取組
- シンポジウム、現地検討会の開催を通じた放牧の推進
- 地域の飼料増産への取組の核となる人材の育成

【食品残さの飼料化(エコフィード)の推進】

- エコフィードの普及・関係者の理解醸成
- 品質・安全性の確保
- 全国的なエコフィード資源の発生実態把握

粗飼料増産の取組を点から面へ拡大

- 国産稲わらの飼料利用の拡大と自給100%の達成
 - 稲発酵粗飼料の作付拡大
 - 水田放牧の取組拡大(肉用牛の増頭)
 - 人材育成の拡大
- | | | |
|----------------|-----|---------|
| 放牧伝道師 | H17 | H18(目標) |
| 稲発酵粗飼料コーディネーター | 36名 | → 86名 |
| コントラクターアドバイザー | 31名 | → 81名 |
| | 31名 | → 81名 |

エコフィードの安全性の確保

- 全国・地域シンポジウム等の開催
- エコフィード安全性ガイドラインの作成
- 全国的なエコフィード資源の発生実態調査の実施等

水田・耕作放棄地等を活用した放牧の推進について



肉用牛の
増頭の機運
をアップ！

国土保全に
寄与！

【肉用牛生産性向上等対策】

【地域肉用牛振興特別対策】

【肉用子牛市場流通促進対策】

新規対策



新規対策



放牧経験牛のリスト作成配布や
放牧経験牛の広域流通の促進

ソーラー電気牧柵等の
放牧管理機器の整備

子牛セリにおける放牧子牛表示
機能の追加

☆推進のメリット☆

- 放牧未経験牛だけの放牧による脱柵やけが等の事故を防止！
- 強健で、腹づくりができた放牧子牛の市場における適正な評価！